

コラム



マックちゃんの思い出

岩手県獣医師会盛岡支会

原 茂雄

岩手大学名誉教授 (現ワンニャン Point クリニック院長)

人生の後半に開いたクリニック、15年間には数え切れないほどの飼主さんとワンちゃんたちと心温まる巡り会いを果してきました。そのなかでもどうしても記録に留めたい飼い主さんとワンちゃんがおります。

仙台のフレンチブルドッグのマックちゃんです。この名前は飼主さんがアメリカで愛用したパソコンに因んだそうです。マックちゃんは2歳になった頃から歩行困難の症状が出てきたので大学で検査を受けるために盛岡に来ました。私は既に退職していました。診断結果は先天性の脊椎奇形(二分脊椎、重病です)で、無情にも治療法無し、と宣告され、会計を待ったそうです。その時の飼主さんとマックちゃんの哀しいお気持ちは図り知れません。マックちゃんの飼主さん(現東北大学医学部名誉教授)は、ちょうど診察後、偶然にも交通事故で歩けなくなったワンちゃんが私のクリニックで治ったという飼主さんと巡り会い、そこに行くようにと紹介されたそうです。ご夫妻は薬をも掴む気持ちだったと聞かされました。

マックちゃんの治療について、私が30年間にわたり纏めた資料と実践から先生に教えるを乞うつもりでスライドをお見せして、また先生のご意見を聴くことができました。総じて言えば鍼灸治療は少しでも残存する本来の生体機能に刺激を与えて働きかけ、消失しかけた機能を何とか元に戻そうとする治療であることで、私も一致できたと思いました。治療を開始して3ヶ月を経過した頃から、先生の観察では知覚反射ばかりではなく、欲目にもひいき目にも、もちろん客観的にも、最悪の時期には後肢を引きずっていたのに、明らかに歩けるようになってきたとのことでした。家庭ではマックちゃんが上機嫌になることもめっきり多くなったそうです。仙台では広瀬川の畔を散歩する仲間にも『良くなったね』と言われることが多くなったそうです。鍼灸治療の効果が現れるまで多少時間は要しましたが、この効果がでるまでの状態を先生は『生物学的不確実さ』と見ていました。時間はかか

りましたが、効果が出たのは私の思う確実さだったと思っています。

盛岡からの高速道の帰路、宮城県の長者原サービスエリアにある「化女沼ピクニックエリア」での散歩は、マックちゃんの歩行が随分良くなったこともあって、毎回忘れられないほどの楽しい行事になったとのことでした。

その時期を同じくしてマックちゃんがクリニックに到着して診察台に上ると、ご夫妻の着席を待ってから私に飛びつき、大きな口でスキンシップ(舐める)を求めるようになりました。それが治療のたびに必ず3回、ある時は4回飛びつき、それが終わるとじっとして伏せて約1時間リラクセスして終わるのでした。このようにするワンちゃんは他にいませんでした。ある時、私はもう良いから治療しましょうと飛びつきを断りました。すると寂しい顔して伏せましたが、何を考えたかいきなり向を変えて私に左手を上げてチョンチョンとサインをくれました。私は『そうか』と納得してマックちゃんが満足する様に左頬耳をだしました。これは何のサインだろうと考えさせられました。ご夫妻にたずねると『このようにするのは先生にだけで他所の人にはしない、特別なのだ』とのことでした。歩ける、走れる、飛び上がれる、本来の生活ができるようになってきた喜びを私に伝えているように感じました。

マックちゃんを通われた10年間、150回にも及びました。ご夫妻はその10年間、風・雨・雪にも関係無く、三陸沖地震でガソリンの入手が困難なときも、仙台から盛岡へ定時に到着されることに私は言葉が無くただ敬服の念でいっぱい、安全な帰途を祈るばかりでした。2020年9月にマックちゃんの体調が優れず長距離ドライブに絶えられないかも知れない、予約の日には行けないかも知れないと連絡がありました。13歳、持病を抱えながら年齢的に見てもよく頑張れたと思うのです。奇形と加齢による合併症とも思いま

した。しかし、そのような状態でも先生ご夫妻は万難を排してマックちゃんに治療は無くとも、マックちゃんと私のために連れてきて来てくれました。大きな瞳でお互いに無言の意思を通じあいました。危いと言う心配を抱えた最後の東北道ドライブ、マックちゃんにはしっかり10年間の思いでを振り返りながら、ご夫妻はマックちゃんに見せたかった、私に会わせなかったことに感無量でした。その数日後にマックちゃんは息を引きとったと言う電話がありました。

マックちゃんに限らず期間を問わず治るまで、治っても健康維持のために通われた飼主さんとワンちゃん達、東京から新幹線、遠距離の青森、秋田、仙台、県内では沿岸や県北からも片道3時間はかかります。私は飼主さんとワンちゃんたちの心を何時も抱えて来ました。

飼主さんは優しさ、色々専門知識と技術を持ち合わせています、そのお話を聞けること、ワンちゃんは話さないけど人を見ているし話も聴いている。家庭で

はワンちゃんをご主人の発作を奥さんに伝えて助かった（命の恩人だといい）ことなど、ちゃんと役目を果たしているのを聞かされています。

ワンちゃんたちに信頼される人間、飼主になれるのか、その逆も考えてきました。いつの間にかそろりそろりと近寄ってきて、治療を私の懷で、腕を枕にしたりしていくワンちゃん、もっとやってくれとサインを出すワンちゃん達が不思議でなりません。ワンちゃんから教えてもらうことが多いと聞きますが、そこには堅い家族愛で育まれている、ワンちゃん達のもつ愛情と感謝の本質的なものが宿っていると思います。

私は人生の感謝と併せ、マックちゃんはじめ多くの巡り合ったワンちゃん達のご冥福とご多幸をお祈り致します。

（追記：本稿は茨城県立鉾田第一高等学校同窓会報No.56号に掲載されました。本誌への掲載は岩手県獣医師会々長佐々木一弥氏のご好意によります）

